

鋤柄農機(株)にて農機具を海外研修生が見学&実習

農機具を手がける鋤柄農機(株)に5月24日(火)海外で農業の試験・研究・普及に携わる国の担当官が研修に訪れ、最先端の日本の農機具について学ぶとともに工場見学、農機具操作の実習を行いました。

これは、発展途上国の社会・経済の発展を支援する国際協力機構(JICA)によるJICA集団研修「小規模農家用適正農機具開発普及コース」の一環によるもので、同社は約50年にわたりこの活動を支援しています。

当日は、パキスタン、パプアニューギニアなど5カ国6名の研修生が参加し、同社で製造している農機具約300種類のうち、主に九州地方の野菜作りやブータン王国等で使われている「ハンドガルチ」や耕運機、トラクターなど約20種類を紹介。研修生は、工場見学と農機具操作の実習を通じて熱心に担当者の話しに聞き入り、積極的な質問も交わされていました。



鋤柄専務は研修生に直接英語で説明し、さらに「今後も、積極的に研修生を受け入れ、途上国の農業開発を支援したい。」と意気込みをみせていました。